

モユク★カムイ



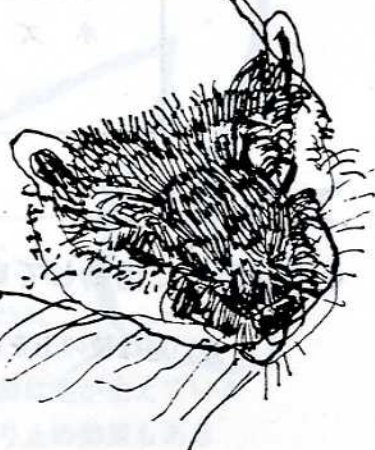
旭山どうぶつえんニュース

5.6年前、コツメカワウソを飼育していたことがあります。とてもよく馴れていたもので、園内を散歩したり、かけっこをしたりしていました。前足はとても器用でボタンを外すくらいは簡単にやっつけました。

そんなカワウソが尻尾を支えとして2本足で人のように立っている姿はまさに“河童^{かっぱ}”に見えました。

ニホンカワウソ

Lutra lutra whiteleyi



目次

- 2.3 草食動物 その4
『リス・ウサギ』
- 4.5 特集 『カワウソの調査』
- 6 動物園界の話題
獣医室から
ポストコーナー
- 7 飼育レポート
『カイウサギの繁殖』
- 8 動物園日誌

1990

JAN.

NO.

19

★モユク・カムイ
(アイヌ語でエゾタヌキのことです)

草食動物の特集も今回が最後です。前回まではゾウ、偶蹄目、奇蹄目と蹄を持った大型の動物たちについて特集してきましたが、今回はネズミやウサギの仲間が主役です。

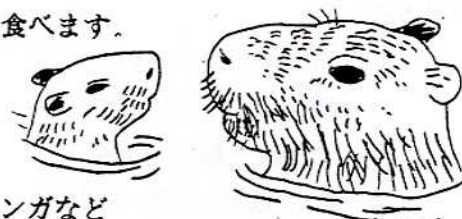
ネズミの仲間(齧歯目)

一生伸び続ける門歯(前歯)をもっています。
木の実、果実、葉、根など様々な植物質のものを食べます。
中には昆虫などの肉食をするものもいます。

齧歯目

リス 亜目 エゾリス、シマリス、モモンガなど
テンジクネズミ亜目 カピバラ、ヤマアラシ、テンジクネズミなど
ネズミ 亜目 ハツカネズミ、ヤマネ、ハムスターなど

*モルモットと呼ばれている



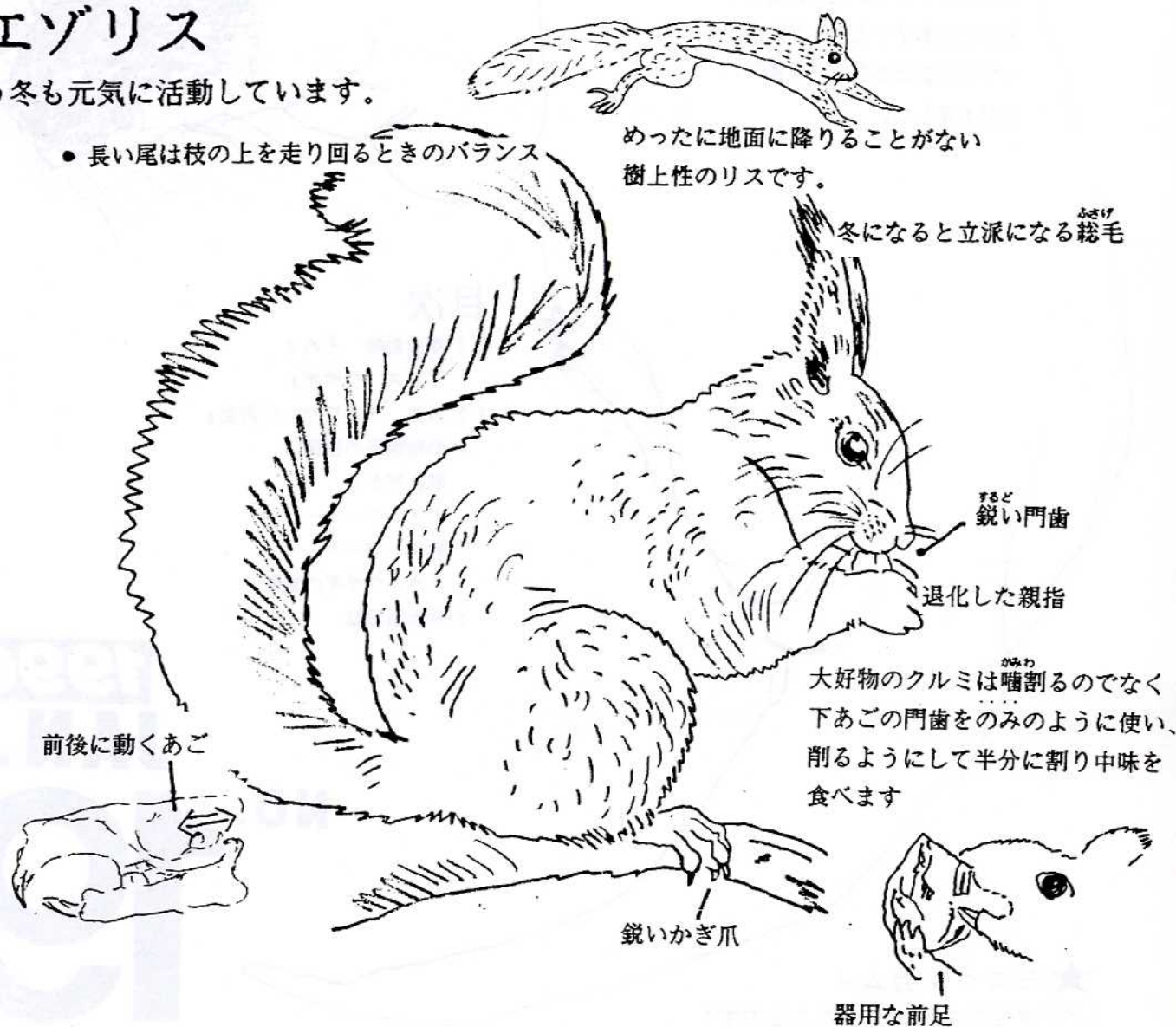
エゾリス

●冬も元気に活動しています。

●長い尾は枝の上を走り回るときのバランス

めったに地面に降りることがない
樹上性のリスです。

冬になると立派になる^{ふさげ}絨毛



前後に動くあご

鋭いかぎ爪

器用な前足

大好物のクルミは^{かみ}噛割るのでなく
下あごの門歯をのみのように使い、
削るようにして半分に割り中味を
食べます

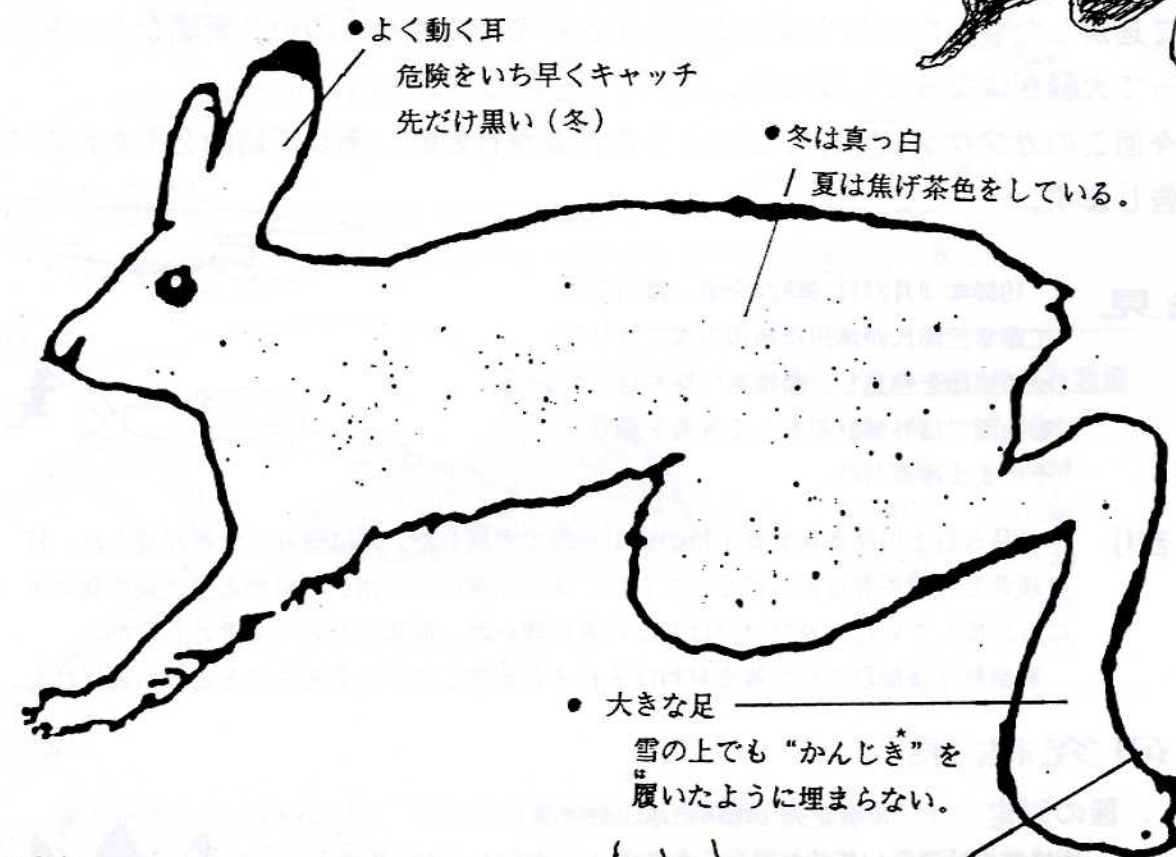
鋭い門歯

退化した親指

・エゾユキウサギ

北海道にすむノウサギの一種です。

冬は耳の先だけ残して真っ白に変身します。



●よく動く耳

危険をいち早くキャッチ
先だけ黒い(冬)

●冬は真っ白

/ 夏は焦げ茶色をしている。

●大きな足

雪の上でも“かんじき”を
履いたように埋まらない。

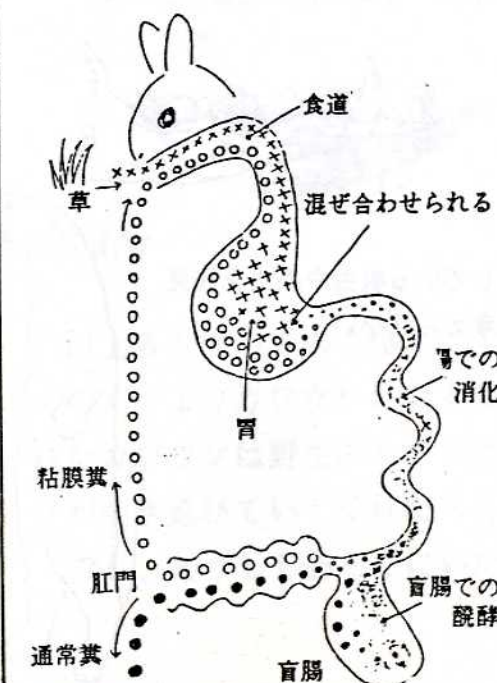
足の裏に毛が生えている
滑り止め効果もある

*かんじき

雪の野山を歩くときに使用する道具。
雪靴の下に履く枝で作った輪で
雪に埋もれないで歩けることができる

食糞

ウサギの仲間はコロコロの糞と黒い粘液糞の2種類の糞をします。粘液糞には豊富なビタミンが含まれていて、これを食べないと死んでしまいます。食べる時は肛門に直接口をつけてなめるように食べます。



とめ足

ユキウサギはアナウサギ(カイウサギ)と違って地面に巣穴を掘りません。

フォームというくぼみを作りそこで休むだけなので敵に足跡をつけられるとすぐに見付かってしまいます。

そこでフォームの近くにくると、ピョンと横飛びして少し進み、またピョンと飛びます。こうすれば目線の低いキツネなどには足跡が急に消えてしまったように見え、ウサギがどこへ行ったのか分かりません。



旭川でカワウソ発見!!

北海道ではすでに絶滅したとされていたカワウソが発見された。

このカワウソが本当に北海道のカワウソの生き残りなのか？それとも誰かが飼っていて逃がしたもののなのか？はたまた外国からやってきたものか？新聞などの報道も手伝って大騒ぎになってしまった。

今回このカワウソについてどのような調査が行われ、そして結論を下されたのかを報告します。



発見

1989年 6月27日 9時20分頃、深川市の工藤幸三郎氏が旭川市神居古潭でカワウソの死体を発見し、動物園へ持ち込んだ。動物園では外部計測をして写真を撮りそのまま冷凍した。

解剖

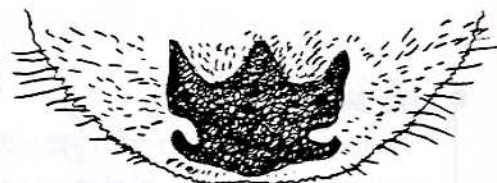
8月8日上川家畜保健衛生所の協力を得て実施した。ほぼ全身に骨折が見られ、特に頭骨と右肩甲骨は粉々になっていた。体の左側に広く出血の跡があり、胸や腹の中にも出血していた。カワウソは左から車に轢かれ、即死したものと考えられた。

解剖終了後採取された検査材料はそれぞれ研究して下さる先生のところへ運ばれた。

各研究結果

1. 種の同定 小菅正夫 (旭川市旭山動物園)

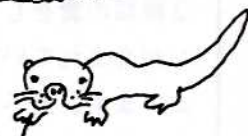
体格部の計測値と鼻鏡の形からカワウソ (*Lutra lutra*) と同定したが、亜種の同定には至らなかった。



2. 病理解剖 青木仁久 (上川家畜保健衛生所)

各臓器については特筆すべき事項は見当らなかった。

ただ、前肢長はニホンカワウソ及び他亜種カワウソと比較して短かった。



3. 年齢査定と歯石 大森司紀之 (北大)

犬歯セメント質の染色切片よりこのカワウソは満11才又は12才である。また、歯に厚い歯石が付着していることから飼育されていたものと考えられる。

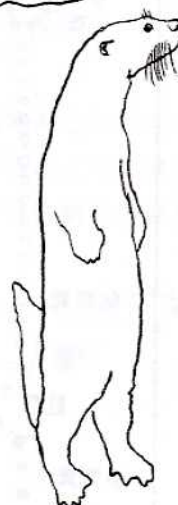


4. 寄生虫 宮本健司 (旭川医大)

2種類の寄生虫卵を少数発見したのみで旭川に土着している吸虫や条虫を発見できなかったことは野生的生活を送っていた動物とは考えられない。

5. 大腸菌 熊木貴博 (上川家畜保健衛生所)

腸内より薬剤耐性の大腸菌が検出された。動物園で飼育中のカワウソからも薬剤耐性大腸菌が検出されたが、野生のネズミ、ウグイからは検出されなかったため人間の生活圏内で生活していたものと考えられる。



6. 水銀 北海道公害防止研究所

体毛、筋肉、肝臓よりそれぞれ平均37.6、1.66、9.58ppmの水銀が検出された。

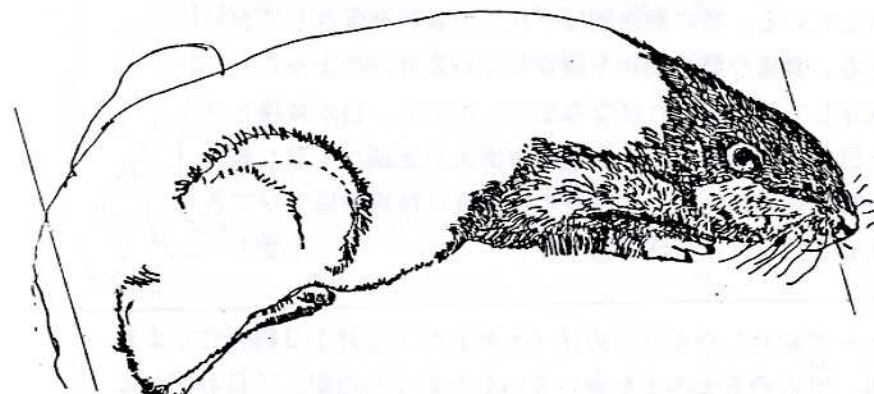
7. 胃腸管内容物 小宮山英重 (豊平川さけ科学館)

胃腸管より得た鱗、耳石などからカワウソはウグイ類、ドジョウ、フクドジョウ、を食べていた。これらは石狩川中流域に最も多く生息しているもので、発見される前にそれらを食べていた。



8. 脂質分析 中野益男 (帯広畜産大学)

脂肪酸組成によると旭川のカワウソはニホンカワウソのオスと一致した。



カワウソの主な外部計測値

体 重	8100 g
体 長	1135mm
頭胴長	670mm
尾 長	465mm
頭 長	132mm
耳 長	25mm

討 論

歯石が厚くついていたこと、寄生虫が少ないこと、薬剤耐性大腸菌を持っていたこと、12才(野生では最高齢)という高齢の割には歯の磨耗が少ないことなどから飼育下にあったことは確実であろう。

胃腸管内の魚は誰かが採集して与えた可能性は残るものの、カワウソが自ら採食したものであろう。但し小型の魚が多いので餌の採りかたは下手であったと考えられる。

結 論

旭川で発見されたカワウソは飼育されていたものと考えられ、発見された神居古潭付近にはごく最近、最大限2~3週間前に放されたものと思われる。



結 論

以上各方面の方のご協力によってカワウソ事件にも幕が引かれました。この間、多くの方々よりカワウソに関する情報や資料をいただきました。残念ながら今回発見されたカワウソは野生のものではなかったのですが、この北海道のどこかでエゾカワウソが生き延びてくれたらと願っております。

でも、どうしてあそこにいたのでしょうかね？



動物園界の話題

旭川でカワウソ発見

1989年 6月27日 9時20分頃、旭川市の神居古潭でカワウソの死体が発見され、動物園に届けられた。出自調査は1987年大分県で捕獲されたツキノワグマにおいて実施された調査を参考として調査項目を決定し、調査の目的は次の2点とした。

(1) 種及び亜種の同定 (2) 野生個体か否か

さていよいよ調査に入ることとなって比較材料がないことに驚いた。血液やDNA、脂質の検査にはどうしても比較する他の種及び亜種のそれらが必要であるが、それらを保存している機関がなく、せっかく研究者の方々が調査の協力を了承して下さったにも係わらず、亜種同定までに至らなかったことは極めて残念なことであった。次々と野生動植物が減少絶滅していく中で、基本的な標本の収集がなされていないことはわが国の博物学の底の薄さを示している。特に動物園はそれらの資料を保存しておくことのできる数少ない施設である。貴重な野生動物を飼育している責任の上からも、ひとつでも多くの比較標本を保存して行かなければならない。加えて、日本産種と外国産種との遺伝学的検討などを日常の業務の中で、我々動物園人が意識して取り組んでいけば、今後この様な調査が持ち込まれたときに資料の提供及び技術的協力ができることとなると思う。いたく反省させられた事件であった。

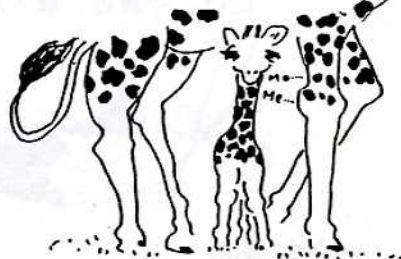
(小菅)

トモの死

第17号のこのコーナーで紹介したキリンの仔『トモ』が12月12日死亡しました。生まれて初めての冬、恐る恐る氷の上を歩いていたトモでしたが、7日わずかに右後足を引き摺って歩いているような気がしました。滑ったかな？嫌な予感がしました。2日後右足をかばって左後足に無理がかかるようになり、さらに後足をかばって前足までも動かなくなり立っているのがやつの状態になってしまいました。10日ついに座り込んでしまい、再び立つことは出来ませんでした。

解剖して原因を調べましたが、右後足の2カ所の小さな筋肉に断裂が見付かりました。たったこれだけで？・・・キリンのあの体型が微妙なバランスの上で成り立っていることを実感させられました。どこか少しでそのバランスが崩れると一瞬にして全てが崩壊してしまうのです。自然の厳しさがキリンをそこまで進化させたのでしょうか？判りません。

(元)



ポスト
コーナー

網走郡 東も琴村 中央

山がすみ

どうぶつえんのあじふへ
わたしはひがしきこにすんでいます
しばやまがすみといひます。
小学校の一年生です。
にきでまいとしにマワリをつくりま
す。たのしみです。どうぶつにあげてくだ
い。かきとけたりどうぶつえんへい
きます。でようしくおながいします。
しばやまがすみ
ヤマトノオ



旭山ZOOの飼育研究レポート

カイウサギの繁殖

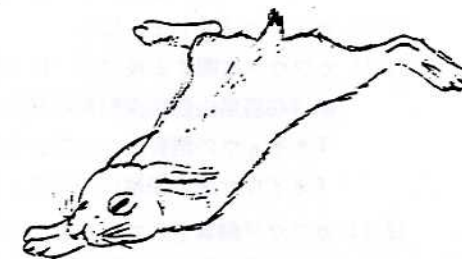
旭山動物園ではカイウサギの計画的繁殖を行っています。現在は繁殖グループとしてメス6頭とオス2頭、そして36頭の子供たち、合わせて43頭のカイウサギを飼育しています。飼育を始めた時は繁殖グループも子供たちもみな同じ部屋で群れ飼いにしていました。しかしその中では、妊娠したメスは落ち着いて巣を作ることができず、また何とか巣を作り出産しても他のウサギに邪魔されるなどしてなかなか育ちませんでした。

そこで親と子は別々の部屋で飼育することとし、繁殖グループは1頭ずつゲージ(飼育かご)で飼うことにしました。

メスは出産が近付くと自分の胸のあたりの毛と干し草で出産のための柔らかな巣を作ります。最初は狭いゲージに慣れないのか落ち着かない様子でしたが、今ではすっかり慣れて予定通りに繁殖させることができるようになりました。

ウサギにも子育ての上手下手があるようです。10頭産んで10頭とも育てる母親もいれば、産んだ子全部をすぐに捨ててしまう母親もいます。時には母親が自分の子を途中で育てなくなることがあります。その原因はたくさん考えられますが、生まれた子供が弱々しいときには母親は決してその子を育てようとはしません。その子を育ての上手な授乳中のメスに里子に出してもやはり育ててはもらえません。動物の世界では育つかどうかわからない子を苦労して育てるだけの余裕はないのかもしれない。野生の世界の厳しさを教えてもらったような気がします。全体で見ると離乳まで成長できる子供は3分の2位に過ぎません。可愛いウサギたちにも厳しい社会があるんですね。

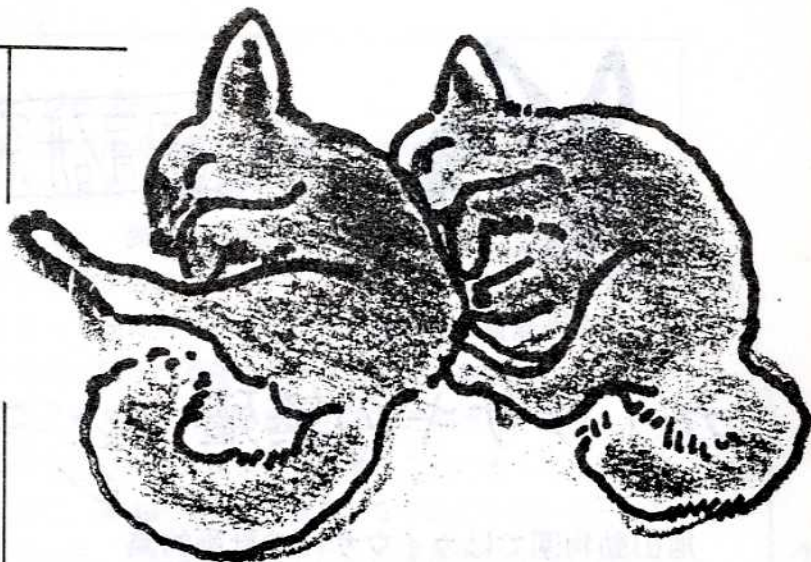
(谷)



飼育日誌

《平成1.10.10～2.1.15》

- 10.12 日本動物園水族館協会北海道ブロック
飼育技術者研究会
『エゾリスの繁殖について』牧田
『チンパンジーの群れ形成』曾我部
於：登別クマ牧場 ～13
- 10.21 水禽舎ミンクに襲われる
- 10.22 1989. さようならウォーク・ラリー
平成元年度閉園
- 10.23 閉園作業始まる
動物の移動、池や運動場の大掃除
木の冬囲い、遊園地の片付けなど
- 10.28 ホッキョクグマ「ハッピー」出産
初めてのお産に失敗～30
11. 3 第 145回旭山動物園飼育研究会
『動物園の将来構想』小菅
- 11.16 ホッキョクグマ血液検査 コロ・コユキ
- 11.19 ホッキョクグマ血液検査 コユキ
- 11.23 Zoo ガイド「グリーンフォーラム」
- 11.29 日本動物園水族館協会
動物園技術者研究会
『エゾリスの繁殖について』牧田
『ホッキョクグマの肝硬変』坂東
於：愛媛県とベ動物園～12.1
- 12.12 キリンの仔「トモ」死亡
- 12.13 カワウソに関する検討会 於：旭山
第 146回旭山動物園飼育研究会
『ダチョウの飼育について』小林
『カイウサギの繁殖について』谷
- 12.14 カワウソ飼育されていたものと発表
飼育実習「教育大学附属旭川中学校」
- 12.20 Zoo ガイド「旭川絵本の会」
- 12.21 ライオン血液検査・ワクチン接種
- 12.29 御用納め
- 12.30 正月特別体制 飼育係5名勤務～1.10
- 1.14 ライオン ワクチン接種2回目



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

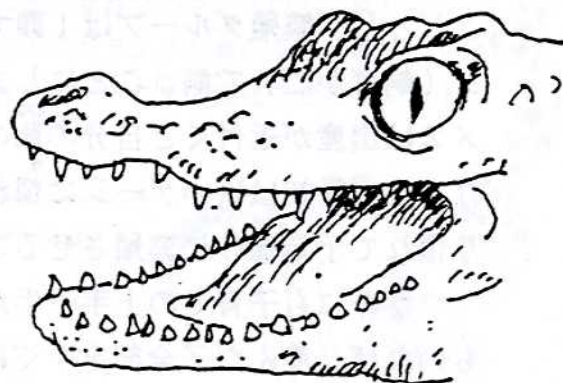
昨年はいろいろと動物園を気に掛けて下さり誠にありがとうございました。

今年の干支は“うま”です。前号はちょうど馬の特集でしたが、今回で草食動物の特集は終わります。

また、今号に昨年話題になったカワウソについて、簡単にその調査概要をのせてみました。

何だか雪の少ない冬のような気がしますが、皆様お体に気をつけて冬を十分楽しんで下さい。動物園の開園は4月29日です。動物たちもお目にかかれる日を楽しみにしております。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



モユク・カムイ

No. 19

平成2年1月21日

発行所 旭川市旭山動物園
発行人 菅 野 浩

☎ 078 旭川市旭山動物園 ☎ 0166(36)1104
編集委員 小菅正夫 阿部 寛 坂東 元

飼育動物数

(1月1日現在)

哺乳類	45種	226点
鳥 類	79種	432点
爬虫類	5種	34点
合 計	129種	692点